御用記 明暦元年 坤

明暦録

内閣文庫
番號 和 15[illegible]
冊數 2(2)
函號 163 203

内閣文庫
和書
類
一五七八 三號
二冊
一六三函
二 三架

日本政府図書

明暦元乙未年
七月朔日
一 諸家礼之例
名字 湯浅殿
明安信殿 御奉札
名
花房ハ奥
一金子代
昨ホ十
一切り
根子代
名書 廣瀬ハ札

松平河内守
藤堂和泉守
本多大隅守
織田内記

右衛門　井上武助

一 大庭但馬守返白上方ニ　御使ニ参ル

模様の儀ハ申上る

月並之儀一段立へ

七月二日

一 二九　御成

詰所ト書付を二枚内ハハ如し

七月之日

一 後

女院の方七夕の祝儀として

時ニ何色ニ着衣として

承知ニ附候

金七枚
時服三之羽織

古屋但馬守

附出候之

一虎
二之丸中奥御小姓衆鳥松之丸ゟ

一 保科肥後守也 謁

七月三日

一 二丸 御成

七月五日

一 掃部頭殿肥後守也 謁 御目見

右之通ニ［illegible］奉承之

七月六日

一 酒井安芸守

覚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御扱之

右［illegible］相違無之候

七月七日

一 諸家札出例

御刀

松平［illegible］殿

例年之通［illegible］書院［illegible］大廣間［illegible］

以御礼於白書院ニ而（以案内申上候）
上ル　　　　竹内白川家　使者

此節御断申上ル

上書不残御札ニ付仕候　其外ニ付御　御様子申上ル

七月八日

一　二九　被御門跡ヨリ御札仕ニ付書院ニ而被仰

御菊小十人組席ニ而申上ル　使者

上席之格別御中也　御出仕　御逢

七月九日

一 此方様ゟ両人ゟ御様子見廻として

御書院番

松田左太郎

筒井数馬

渡辺源蔵

御小姓組

松田七郎右衛門

榊原弥右衛門

杉半兵衛

新番

木村三右衛門

天野源兵衛

三浦小左衛門

長田源兵衛

小十人組与頭

長岡平十郎

高尾伝九郎

小尾伊兵衛

白井平兵衛

小笠原与左衛門

小林孫右衛門

右十二人此帳子筆為一通りにて

小十人組

林三五郎

川田米平

川尻源五郎

伊尾彦兵衛

篠田助六

石川左五郎

中沢市左衛門

内藤三五郎　実父

山内甚五郎

今田源兵衛

浦野権兵衛

右十七人此帳子一通りにて

鶴見宗新左衛門

小笠原七郎兵衛

神谷伝右衛門

服部七郎兵衛

七月十日

一 九条殿右二条殿加茂社分　御用之
真綿　十反　さらさ染　十反
さんとめ綿　同　綿花意御　同
志やむら染　同　枝珊瑚珠　六本
さんご珠　五　琥珀　十
右之通進上

一 保科弾正大弼え以御前御用向相勤候 近習御取次
一 遠藤但馬守日光え松平式部大輔ニ而為差遣
四家え　御用之儀有之
浅野様　就被仰付　元ノ木保兵衛
松平大和守　甲府大番、相成
松平下総守　御用之
依之同大和守御用之上使加藤之助

七月十一日

一 御鷹之雲雀被下之 上使大番頭 井伊掃部頭

例 雲雀被下候ニ付 上使ニ御礼之人々 保科肥後守

一 御馬預ニ付 松平大隅守

新番頭ニ付 松平肥前守

一 同上 松平内蔵頭

一 御馬預三十 松平新太郎

一 同上 松平安藝守

七月十二日

一 松平越後守 御鷹之雲雀二十宛被下之

尤 佐山掃部頭 御使番 御同道

一 紀伊宰相殿 尾張中納言殿 水戸宰相殿へ 上使を以御鷹之雲雀被下之

一 右三殿方 大御所様(?)より 御鷹之雲雀被下候ニ付 御礼有之

御鷹之雲雀被下候ニ付 上使ニ御礼之人々 松平大和守

一 同上 松平安藝守

一 御馬預ニ付 細川越中守

一 同上 松平阿波守

一 同上 本多内記

一 御馬預ニ付 伊達遠江守

一 新番頭ニ付 秋元大学頭

一 同上 松平兵部大輔

七月十二日

一 殿中別条無之、御用番 阿部豊後守

小笠原[illegible]、[illegible]

松平伊豆守[illegible] 上使[illegible]

一 名代[illegible]跡目

寺社奉行[illegible] 寺社[illegible] [illegible]

松平[illegible]跡目 [illegible] [illegible]

[illegible] [illegible]

七月十六日

一 殿中別条無之、御用番 阿部豊後守[illegible]

七月十七日

一 例月之通出仕無之

一 増上寺　御名代保科肥後守

一 上野　御名代酒井雅楽頭

一 尊号御免之儀ニ付而
丹羽[illegible]より差上候、杉原紙元代り之
進上之紙御用ニ候

七月十六日

一 殿中別条無之
雷雨有之

七月十七日

一 紅葉山　御名代[illegible]守

亀
南部山城守病気ニ付名代相勤之

七月十八日

一 殿中列座被　仰付

虎
松平隠岐守御名代ニ付右之通被仰付之

但 隠岐守病気ニ付

仁
同席之者 領ノ内当番之者勤之

七月十九日

一 養君被　仰出候ニ付御祝儀献上之ニ付縮御内意之

仁
右同御用中ニ付退出御用番 松平伊賀守

七月廿日

一 上意　御[illegible]

（朱）[illegible]被仰付之

松平出雲守

七月廿一日

一 [illegible]

（朱）[illegible]

（朱）[illegible]

七月廿一日

一 松平讃岐守 伊豆守事 病気ニ付 同道ニ而 雲州様 罷出候

尾張大納言殿 名代 ニ 而 雲州様へ

紀 出雲守殿 名代 讃岐守殿へ

ニ而 雲州様へ
上使 御用番 松平伊豆守
松平伊賀守 松平出羽守
〃 松平大和守
〃 松平越前守

〃 松平下総守

〃 松平信濃守 松平丹後守
〃 松平遠江守 〃 安藝守 丹後守
〃 松平但馬守
〃 細川越中守 ...

〃 御用番 紀伊殿 名代

七月廿二日

一 細川肥後守 松平讃岐守 御目見

一 松平民部大輔 同 御目見 嫡子二 縮緬

右同人

七月廿四日

一 増上寺 御参詣 若宮

以御名代参詣

七月廿五日

一 白書院 出御

参勤御礼

銀百枚
猩々緋十間

今之代
綿山百把

今之代
綿百把

小性子[illegible]

本多内記

松平摂津守

松平中務大輔

松平主膳

征夷大将軍
奉書紙五拾帖
御請書
御目録
御目録
松平伊賀守
松平右京亮
内藤紀伊守
松平主馬
服部右近
純目録
（金百枚
附依二十
右御礼御目付也
献上
家光
御目見
同二人
三好相模
当島監物

右中将様御礼松平式部
三好主殿
岸刑部
御目録
小出大和守
本多伊賀守
松平伯耆守
石谷八左衛門
筑前
広瀬
筑前
中川内蔵
一小勝西京
一小勝若狭
三人中野出羽

七月廿六日

一 二九 御城出仕之 御用番 伊賀守殿

伊賀守様御渡ニ付 御城出仕之上 仕置

上意 於御座敷 御役人 御目見

御能組

高砂 今春

熊野 今春

現在鵺 宝生大夫

紅葉狩 今春

祝言

二人静 宝生大夫

土蜘蛛 宝生大夫

鹿狩 右衛門 宝生大夫

土蜘 今春

福弁当 今春

小鍛冶 宝生大夫

大山伏 備大夫

鵜飼 備大夫

花村新助 併ニ おえつ殿 [illegible]

多津の地蔵 [illegible] [illegible]

東慶寺 [illegible]

[illegible]

松平山城守

戸田采女正

[illegible]

大久保加賀守

松平山城守

[illegible]

[illegible]

小笠原[illegible]

青山因幡守

[illegible]

松平[illegible]

[illegible]

[illegible]

松平[illegible]

[illegible]

[illegible]

戸田[illegible]

[illegible]山城守

松平[illegible]

[illegible]

七月廿七日

一 殿中別ニ無之

井上河内守[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

松平[illegible]

[illegible]

松平[illegible]

[illegible]

七月廿八日

一 [illegible]

御用[illegible]肥後守

御目見

一 大廣間ニ而御座諸大名出仕有之

尾

松平右京大夫ニ而御尋有之　諸

松平備後守ことり立候而御座候

紀

伊家之上座候而[illegible]

上座候間[illegible]松平加賀守御礼　[illegible]　松平出羽守

[illegible]　松平陸奥守

月並之出仕拝見候而着到之通

七月廿九日

一 太田但馬守家督御礼　御目見　其後御太刀[illegible]

明暦元乙未年八月

御日記

従
寺社奉行[illegible]到
[illegible]

七月廿八日

[illegible]

藤十郎

国立公文書館
National Archives of Japan

明暦元乙未年

八月朔日

御刀　　永井伊賀守

一 諸大名御礼如例相済

上意之内九ツ時前 [illegible]

[illegible]

[illegible]

牧野佐渡守今日之 [illegible]

一 松平陸奥守御鞍置とも

[illegible]

常憲院殿

有徳院殿

天英院殿

御先 [illegible]

[illegible]

大久保平右衛門

八月二日

一 敬仲別条無之

亮 新役人七月廿日封書を出候田口新左衛門やくの(?)相勤候

南部山城守へ伝候而名代相勤一候由

杉平隠岐守ゟ一箱到来之

八月三日

一 御誕生日之祝儀之出仕申上御祝儀之

亮

紀 先月之触ニ御触之通之

南部山城守へ御礼之

亮 中根之儀ニ付隠居而相願候処

中奥ゟ之 年寄共 一同様ニ相伝之 御礼ニ相成

八月四日

一 評定所式日老中出座

紀 庭中取扱之儀候 御答之

八月五日

一 尾張殿高妻誕生ニ而女子ニ而逝去候ニ付

御使遣之

八月六日

一 殿中御参候

八月七日

一 敬仲川為参候て

右(?) 御[illegible]人[illegible]以[illegible]気ニ[illegible]落し[illegible]

八月八日

一 掃部頭殿肥後守宅　城　御用見(?)

右 御用人二箇(?)様[illegible]

八月九日

一 雨中別条無之

八月十日

一 雨中別条無之

尤今晩九ツ時ゟ雨止申候

但月並之着 翌朝罷出候

八月十一日

一 二丸 御成ニ付御乗馬

尤二ノ丸御作事方御門ゟ 御出ニ付十五時ゟ罷出候

記 和田倉御門桜田御門 出来候ニ付 松平隠岐守 御門番 出向

右同御免小十人組之御組頭右同断ニ付候ニ付 出席候ニ付 御奥御番中
ト有之中間ニ九拾弐新番中へ

八月十二日

一 御評定式日寄合 伊勢守殿御出席

一 二丸 御殿ニ而 御茶馬 化口御用 [illegible]之 [illegible]

一 立花左近将監病気ニ付月雲 [illegible]

御用番老中
何之今日御使ニ而被仰出候 職

尾
御使 松平伊予守 [illegible] 家老 [illegible] 御届之

八月十三日

一 御右筆間物置新規作事出来ニ付

御目見

廣

一 元 御成ゟ御案内

御部屋住松平右京亮忠殿ニ於御通掛り ……

廣

松平右京大夫殿

一 元 御成口ゟ御案内

八月十九日

一 紀 朝鮮人来朝ニ付道中所々御馳走所並御代

朝鮮人帰国之節も同前

一 兵庫
青山大膳亮
松村吉左衛門
小川又左衛門

二 大坂
松平甲斐守
安藤十兵衛
中村吉兵衛
鈴木三郎九郎

三 牧方
九鬼式部
安藤十兵衛
角倉与一

四 淀
永井信濃守

五 京都
松平紀伊守
黒田孫左衛門
小堀仁右衛門

六 大津
本多中務大輔
九鬼縫殿
小笠原右近
松浦河内守

七 守山宿
石川主殿
秋元摂津守

八 八幡山宿
山口但馬
小堀大膳
同 仁右衛門

九 佐和山宿
井伊掃部頭

十 今須宿
井伊掃部頭
岡部内膳

十一 大垣宿
戸田采女

十二 墨俣宿
松平和泉守
岡部内膳

十三 萩原宿
尾張殿

十四 鳴海宿
尾張殿

十五 岡崎宿
水野監物
青山伊賀守

十六 赤坂宿
小笠原右近将監
本多 ……

十七 吉田宿
小笠原右近将監
鈴木八右衛門

十八 荒井宿
松倉
内藤甚兵衛
三宅備前守
依田(?)
秋元内匠

五九 浜松泊
本田備中守
松平民部大輔
本多越中守

六十 見付宿
本多織部守
松平飛驒守

六一 掛川泊
小笠原出羽守
本多伊予守
松平主殿頭

六三 藤枝泊
高尾右京
大久保加賀守
本多忠兵衛
牧野若狭守

六五 江尻泊
高橋刑部少
戸田伊豆守
秋保主水
三宅左衛門
細井大隅守

六二 金谷宿
小笠原出羽守
長谷川 先入
高尾
本多縫殿助
秋保九郎
三宅左衛門
秋保主水

六四 駿府宿
水野伊豆守
一色忠次郎

六六 吉原宿
中川山城守
本多平蔵守
伊東主膳

六七 三嶋泊
稲葉丹後守
伊東
江川 先入

六八 箱根宿
服部左近

六九 小田原泊

三十 大磯宿 先入
坂井仁右衛門
松平市正
大村因幡守
服部右京

七一 藤沢泊
小出大和守
細井丹波守
伊東主水

七二 神奈川泊
松平主殿
遠山出雲守
伊東右京

七三 品川宿
岡部美濃守
牧野出羽守
本多修理
曽根主水
細田小左衛門
小笠原次左衛門

七四 江戸

日光道中御附
越ヶ谷宿
丹羽式部少輔
伊丹主殿頭
伊東主膳

粕壁泊
細川采女守
伊東主水

新栗橋宿
井伊兵部少輔
青木甲斐守
伊東主膳

小山泊
石井壱岐守

石橋宿
三浦志摩守
能勢左衛門

宇都宮泊
奥平美作守

徳次郎宿
奥平美作守
高村保之助

今市泊 先入
市川縫殿
星野一学

日光
松平因幡守
河村長兵衛
深谷新兵衛

十六日ニ去ル十五日夜ゟ翌朝ゟ大風雨ニ付御屋形破損致候ニ付

八月十六日

一黒書院　出御南部之鶴酒頂戴

御目見

一 白書院 出御諸御礼如例
御能役者役儀之 観世左近 使者
御礼 上物 前髪二十
米本 奏者番 宗俊
一 黒書院
出家之御礼 宗播磨守
病後御礼 初而 本多隠岐守
継目御礼 初而 森川出羽
一 御代替後初而
同断 同 杉平内匠
御暇 上杉播磨守名代 太田玄蕃
二条之在番 御暇之御礼 石河土佐
同御礼 右同人

八月十六日

一 殿中無別条

昨日 御番紀 御ちう寺けい門 松為宗二階 原内雑事 以下

御鷹 依風本 初鶴一羽

御鷹人 相勤 廣瀬 同 相勤 門 去 刻 前 方 以 實 三 品

八月十七日

一 二丸 御成ニ付 上覧 雑業 被仰付

伊豆守 若狭守 依被仰付 御鷹 一羽

上意 右同 御供 役人 被見物 候 御供

御能組

東方朔 今春　八嶋 今春

芭蕉 今春　長良 幸太夫

葵上 幸太夫　橋弁慶 今春

彦左衛門　手代　今出

根岸　嵐山

禰宜大夫　名代　大之丞　名代

さく平　名代　廣すけ　名代

水野勘之　名代　なハ秀八　名代

平之済　名代

樂屋吉郎　石川八十郎

八月十八日

一　埜中ゝ手段ゟ御渡方大高檀紙ヘヘヘ

尾　杉本大隅守御用番　[illegible]

沢　同吉之物役所ニ而

[illegible]

八月十九日

一 二丸御厩ゟ御用馬二疋

八月廿日

一 上覧　御若年寄中

是ハ表御用中山勘解由殿御馬場ニ而　八月　［illegible］

月次鷹［illegible］

八月廿一日

一 西御丸尾張殿へ 御對顔之節

一 上使之儀 被仰

一 於書院

駿河守殿

御勤

[illegible]

[illegible]

杉本数馬

[illegible]

渡辺大[illegible]

秋山安房守

駿河守殿

稲葉伊勢守

久世平五郎

右同断二人 [illegible]

[illegible] 杉本[illegible]

絹縮 [illegible]

[illegible]

御目見

駿河守殿

久世長次郎

八人 御目見

一紀州殿人来ル 帰帆之件承知致し候 ……出ル……出ス

八月廿二日

一 二九 御城江御出座

一 ……

[illegible]

松平上野介 久貝因幡守 ……

脇坂中務大輔 ……

松平大膳大夫 ……

八月廿二日

一 南風ニ而 曇天 ……

上使 安藤対馬守 ……

[illegible]

紀州殿人来ル ……

位階不及於表記

八月廿四日

一 傳通院 御名代伊豆守

一 二丸 渡御

八月廿五日

一 白書院 出御

御刀

銀百枚

時服二十

菅沼越中守

西本願寺

尾

丹波守より到来

西川縫　忠毅

一

当夜飛脚到着致候

御目見与力五十騎

八月廿六日

是迄両人ニ　御付来候処□□□□

候趣

尾

右ニ付申上候初□□□□

八月廿七日

一 二丸御成

一 松平右京大夫御納戸 然し子ヽ引足被仰付

庵
西丸下 上屋敷相廻し 御用番 御番所相続被仰付

紀
松平陸奥守 松平 安芸守 丹羽左京大夫 上杉弾正大弼 一同ニ被仰付

鍋島 人 御用ニ付 安藝守 蒲刈ニ 差控

八月廿八日

一 黒書院 白書院 諸役人 御礼

一 黒書院 出御

御暇被下 大坂加番 御暇

病気ニ付 遠慮

青山因幡守

田沼主殿頭

池田帯刀

内藤与兵衛

大坂帰

日向 半兵衛

虎
紀伊家大風雨ニ付家中借金一万両家中ニ拝借大事御家中流失
見
用意之為出午之通り拝借

八月廿九日
一 二丸 御成
紀
御鷹之狩之節ハ御鷹匠江被下置て

八月晦日
一
殿中無別条

国立公文書館
National Archives of Japan

明暦元乙未年九月

御日記

六月中の控へ [illegible]

七月廿二日写

藤十郎

明暦元乙未年　紀[illegible]

九月朔日

一 諸礼如例

東海寺御斎　琢雲

以後　白銀時服[illegible]　同　江雲

来迎　和歌二首　稲垣彦三郎

以後　時之祝物　御　成瀬小吉

御用人　切手二口　筧新五郎

九月二日

一 二九　御成御乗馬

　院
　朝鮮人共ゟ差出候橋本宅ニ而儀之品

一 御覧

一 御當年三月廻ニ而之橋本ニ而候ゟ家来罷出候
　足ノ献上之方ニ而橋ゟ家来林ゟ段々ニ而之様子ゟ来ル様
　様子ゟ段々申上候ゟ可被申候

九月二日

一 従　女院御所重陽之御祝儀ニ付御祝儀之
　御札壱枚進上

九月廿日

一 敬仲朝臣参候、上段河内守候内
勤行日呈之儀

九月廿五日

一 黒書院 出御　日光御門跡、毘沙門堂御門跡
御対顔、日門上段ニ而候、寛教院、実成院
覚樹院、六角杢殿　御用人日門役人迄罷出
白銀時服以下、東日門家老　御用人

奏勤　御前役
　　　ここ花

松平陸奥守

日門上臈衆御膳料より
黄金付被下候

杉平飛騨守

久貝忠左衛門

右同断

与安

女院御所ゟ奉幣之使

鈴木三郎兵衛

右
奉幣ニ付御馳走人

九月六日

一　評定所式日　伊豆守　老中出座

一　二丸　御成　御紫館

右
例録ニ有之　跡ハ無之

九月七日

一 殿中別条無之

（虎）白河之義路銀今七ツ分御渡被成候

遠藤大郎 十三 五拾三歳 右ハ御小人目付ヲ以申渡ス

九月八日

一 殿中別条無之

御尤 御目付ヨリ御渡候 （虎）水野出羽守殿ニ而御用番ニ而御老中ヲ以被仰渡候

（御）目付 御召 御目付 伊井兵部 御手当 御役料

（右同断）御手当 相済 十一月

御同断 向井右衛門

手当 手当 兼帯之御役ヲ以

八月廿六日　伏見ニ而　連歌御会

三日　土御門泰福卿　天文御□□　石川伊与守

九月九日

一　諸礼如例

十三日夜　御月見　稲葉丹後守

三日　□□　酒井雅楽頭

上野御仏殿御参詣　増上寺□□　勝□□

九月十日

一　二丸　渡御

一　水戸黄門不例ニ付　上使久世大和守

一　石川播磨守　病死

一　三枝摂津守　知行□□□□□□□□

一　小笠原安房守　大目付被　仰付

一　渡辺半□　新番頭被　仰付　小笠原安房守

跡也

一 初鹿野伝右衛門（若年寄支配ニ而被仰付候由）是迄内記之加役被仰付候

作料

一 長田源兵衛 加判差免候 御用初鹿野伝右衛門

諸大夫

申之 御用（本門内膳正 支配御取扱）

願之義被仰付候

是迄年久敷相勤候 内記之内々 内記之加役ニ付 申付候

平大夫（御目見以下）

石川播磨守（申渡之）

九月十一日

一 駿河御別家願之 御聞届之 ハ難成候

諸家之 御願之 家来之 御取扱之 江戸御留守居等 大目付 播磨守 相達

申渡之

九月十二日

一 評定所 伊達遠江守殿

一 御同朋頭古田備中守目見之上御礼八朔御礼新規之

九月十三日

一 御同朋頭森川内膳正目見之上御礼老中御名代也

一 上杉喜内大輔家督之御礼 此節遺領御一周忌ニ付御法事之儀有之依之今日被仰付

九月十二日

一 殿中別条無之

主殿頭小十人町ニて出火有之

松平飛騨守殿

九月十五日

一 諸御礼如例月

主水ニ而御供御馬有之

松平飛騨守

一 小笠原安房守病気ニ付初鹿野備後守名代

内藤豊前守国源右ニ付御礼次之様

能登守組ニ而切米之節御礼

初 御目見

表御用懸 黒沢次郎左衛門
御用懸 中山出雲守

一 [illegible]人 歌丸 右 御目見之御礼
一 [illegible]氏 石門[illegible]
本[illegible]氏 加[illegible]氏 伊賀守殿 松平[illegible]
一 小姓組[illegible]氏 松平[illegible]殿 戸田[illegible]郎
一 小姓組[illegible]氏 渡辺[illegible]殿 諏訪[illegible]門
一 [illegible]氏 戸田三郎[illegible]殿 朝倉仁左衛門
相済 [illegible]

九月十六日
一 二丸 御成
[illegible] 御[illegible]

九月十七日

一 紅葉山 御名代 肥後守

中根大隅守死去ニ付六人ニ而 別ニ 御勤

久世大和守、堀田下野守 酒井河内守 久保七兵衛

土屋但馬守、 高木伊勢守 後藤源左衛門

小笠原隼人 永井千太夫 土屋十左衛門 土屋左兵衛

大村長左衛門 山本八郎兵衛

内藤出雲守、 内藤加賀守 中根大隅守 酒井藤左衛門

小栗八右衛門 大岡半右衛門

一 九月十八日

一 二九 渡御出御 上覧 当日 大夫

出御組

賀茂 今春 禅師曽我 十大夫

羽衣 今春 雷電 十大夫

羅生門 半右衛門 放下僧 半右衛門

猩々　今春

狂言

三人　夷毘沙門　出雲　傳右衛門

志ほくむ　うかれ八右衛門

鴫わく　源二郎　勝八郎

福の神　源二郎　伊右衛門

一　妻屋？十郎兵衛

九月十九日

一　御能并別条無之

能八ツ半時過ニ相済候

九月廿日

一 上野 御代参 雅楽頭

静寛院宮様天璋院様ゟ中山様

右御使御小座敷おゐて大御所様御伺御機嫌被仰

九月廿一日

一 大手御門ゟ 出御 内桜田御門 桜田御門前通り

桜田御門ゟ 吹上御庭 御成 九ツ 渡御

九月廿二日

一 評定所式日ニ付老中方出座
 猪山平ハ遠島、深川佐兵衛ハ江戸払、其外
 科人共十九人落着仰渡有之

九月廿三日

一 右同御用ニ付日光御参詣被仰出 御同人

一 昨夜子刻本石町海老屋市郎兵衛宅より出火
 今午刻迄焼失、町数凡十七町、家数六百八拾
 五間

一 火事場ニ而働候ニ付南町奉行所ニ而御褒美
 被下置 右 御同人

九月廿四日

一 増上寺　御名代　肥後守

一 昨夜杉本隆昌寺須田家ゟ出火長屋少々焼失

右同断申上出之右御届

出役人八代御問合候由ニ而御届申上候

風之御花門ゟ御腰物奉差上候ニ付御届

九月廿五日

一 二丸　御渡御

右御門之ゟ御届

九月廿六日

一 黒書院 出御

一 堀田上野介鹿麿詰後依願之内願之通被仰付之

奏者番 御同人

溜詰格 家督 相馬長門守

病後 同 戸田主膳

金山枚 絶同 杉本帯刀

ちくくの知行

渡辺内記 中根壱岐守

千千郎知行五百俵

全山枚 に千石 中根千十郎

ちくくの知行

高千石内 千石 同 内記

本知内記家督(?) 大坂御

大坂給

同断

右　御用足

小倉忠左衛門

一　二九

九月廿七日

渡御

御能入用之内如此候也

一

九月廿八日

諸向礼如例月

来客

付之巻也

今般朝鮮信使来聘ニ付
来朝ニ付曲馬之儀
被仰付候ニ付 御礼

曲馬役桂右衛門
加々爪甲斐守
松平右近将監
戸田三郎右衛門
諏訪左門
朝倉仁左衛門

右 御目見

諸家ゟ差出候朝鮮人へ曲馬見物為致候

九月廿九日
一 御用番戸田大和守日光江 御使被 仰付
是慈眼大師百五回忌ニ付也

朝鮮人江戸着之節、表御書院ニ而御対顔之節
御中之口 詰候

八月廿六日
一 朝鮮人来朝ニ付、上下宿驛ニ而、驛場江出向之
一 来朝ニ付 淀ゟ彦根迄
十万石 本多内記
壱万石 本多隠岐守
四万六千石 植村右衛門佐
四万石 永井日向守
外ニ壱万六千石摂津中ニ而佐和山川
四万石 本多下総守
外ニ来朝ニ而関宿ニ三万石川
壱万石 織田源十郎
壱万石 小原久右衛門
壱万石 、織田右衛門佐
三万石 織田出雲守
三万石 松平若狭守
外ニ四万石大坂ニ而関宿川
帰帆ニ付
一 大山ゟ淀迄
三万石 本多 出入
三万八千石 松平伊賀守
四万石 永井信濃守
外ニ六万石淀ニ而関宿、勝
摂津中ニ而佐和山川

三万五千石　青山大膳亮
外壱万五千石余原田(?)差上り

壱万石　片桐助作
目録　小出半次

高合五拾四万八千石
内四万八千石十三ヶ年已前未ノ年迄

壱万三千石　片桐石見守
壱万六千石　青山隠(?)理

一　東郷付　彦根ゟ大垣江　井伊掃部頭
帰帆付　彦根ゟ中山江　同人

一　東郷付　大垣ゟ若狭国江
帰帆付　大垣ゟ彦根江

七万石　戸田采女
外ニ三万石大垣ニ而差上り

五万五千石　松平丹後守
外ニ壱万五千石是迄ニ而差上り

四万六千五百石　壱岐若狭守　壱万五千石　青山久(?)(?)
三十四万石　藤堂大学　三万五千四百石　内藤(?)(?)守
壱万四千石　土方丹(?)波(?)

高合五拾四万九千四百石
外壱万六百石十三ヶ年以前未ノ年ゟ不足

一　東郷付　若狭国ゟ吉田江　酒(?)隼人正
帰帆付　吉田ゟ大垣江　同人

一　東郷付　吉田ゟ三河江　御知行所　水野淡路守
帰帆付　三河ゟ吉田江　三浦長門守

拾五万石　松平摂津守　五万石　山崎虎之助
五拾四万石　細川越中守　四拾五万石　松平肥後守

弐拾三万五千石　松平新太郎

外ニ八万石ハ備井牛窓ノ配当ニ川

弐拾五万七千石　松平阿波守

拾八万六千五百石　森内記

拾万石　伊達遠江守

弐拾七万九千石余　松平大膳大夫

外ニ九万石上関ノ配当ニ川

五万石　松平但馬守

八拾万石　松平加賀守

七万石　水野備後守

拾弐万石　松平右京大夫

弐拾八万六千石余　松平安芸守

外ニ九万石蒲井ノ配当ニ川

拾八万六千石　松平出羽守

拾壱万石　立花左近将監

八万三千石余　大久保加賀守

四万五千石　浅野[illegible]　之入

三拾弐万石　松平相模守

五万石　松平伊勢守　之入

七万石　松平[illegible]守

外ニ三万石　鞆ノ配当ニ川ゝ

拾五万石　小笠原右近将監

五万石　松平[illegible]守

外ニ弐万石ハ就風用之ニ川

〆高合五百弐拾弐万五千五百石

内三拾五万千石十三年以来来年迄

五万七千石　伊東大和守

弐拾壱万石　五島松千代

来朝ノ時
一 三嶋ゟ　江戸迄

帰帆ノ時
江戸ゟ　三嶋迄

弐拾三万石　保科肥後守

拾弐万石　酒井讃岐守

六万石　阿部豊後守

九万八千石　阿部備中守

五万五千石　松平和泉守

拾万石　酒井雅楽頭

七万五千石　松平伊豆守

拾壱万石　堀田上野介

六万六千六百石　安藤右京進

五万石　井上河内守

拾四万石　本多能登守　拾二万石　太田伊豆守
拾七万石　松平大和守　七万石　牧野　出入
拾七万石　松平下総守　三万四百石　秋元　出入
三万石　松木民部少輔　四拾八万石　中山市正
松平志摩守
高合百九拾四万八千八百石
内六拾六万四千三百石　是者松平家来未ノ年分

明暦元乙未年
十月朔日
一　今晩之猿楽例月之御礼無之
一　両伝奏御書院　出御御饗応
御刀　牧野因幡守

吳
黒田之者依難叶年先之縁、御目見　御手自被下候
右之内　入御之節　御奏者番之者共御目見之面々御礼
御手自被下候

十月二日

一 上杉弾正大弼於大廣間初而御目見

一 午上刻二丸渡御

守、
朝鮮信使申ノ刻本願寺へ着之

十月三日

一 朝鮮信使明日於大廣間御対顔ニ付、為

上使 稲葉氏 遣之 但衣冠着用、御前ニ而被仰付之

伊豆守

尾
保科肥後守名代

十月廿日

一 黒書院 出御 宗對馬守参勤御禮 今般
朝鮮信使聘禮相濟候ニ付 上意有之 次
以酊庵 趙長老 二東二老 俗長老 御目見 是又朝鮮信使
参府ニ付 右御禮
大房く 参府之禮 附被下
帰府御暇
宗對馬守

安藤播磨守
稲葉丹後守

右ニ付目録
今般信使
人参大升
聘禮相済之
虎豹皮之類
餃 三十枚

十月五日

一 殿中別條無之

杉平大隅守 御用相済 一ト通有之

一 十月六日

掃部頭肥後守於 御鷹方 御目見

上使久世大和守 紀伊殿

〃 内藤出雲守 水戸殿

尾張殿

明後八日朝鮮信使ノ礼ニ付也 登城可有之

御意紀伊殿ヘ申ル 令之言上ニ而 御請

取次人也

一 十月七日

黒書院 出御

紀伊亜相・尾張宰相・紀伊相公・水戸

羽林・松平大和守・井伊掃部頭・松平大和守定

御目見 宗対馬守・宗播磨守 御目見 平

御目見之以下 対馬守 老中 取次之

一 中原刑部大蔵少　出御御覧　上覧

十月八日

一 今日朝鮮信使御礼巳刻之筈也　城出
布瀬寺通中参楽ゟ大手下馬之間之筈之
先ニ書簡其次上々官騎馬二行其一人其次旗
鉾役者及従人等二行宛也之筈平橋之際
上之官次官騎馬一行其外官者入数多上官等
大手下馬ニ而下馬場　附楽従人旗鉾等之　役者
之筈退出之　出而ニ直し　上々官ハ橋詰ゟ下乗、

三使ハ中之腰掛ゟ下橋ヘ但中腰掛より御玄関迄
迄案内之三使御本城中ノ御門ニ来付宗對馬守
同嫡子等以酊庵長老井上之頭等遠長老柳川
中之御門之内ニテ三使ニ出向従是先立加藤出羽守殿
従内ノ地走人御本城等御奏者次ニ本丸下[illegible]
会出仕之御玄関ニ到附安藤左京亮松平出雲守
寄松平信濃守小笠原安房守案内ニ出テ案内三使及
上々官同人段上ニテ下上段之下段ハ但段上之間上段ニ

屏風を以床幡之切並之軍官と冠服ハ次之方
二行ニ列次官と小童ハ板縁ニ一列中官之族ハ次
之間之御庭上ニ並之下官ハ下之ミ之台共ニ門之外
一 書簡嫡ニ上々官持之有ニ並書簡箱ニ而取出し
上々官持之入案中
一 従朝鮮国王之進物数多献之御城之兼而
並役並ニ大廣間板縁通りニ實検之宛之
前ニ並置之進物ハ出御以前ニ出並之進上之

馬乃之御茶壺し茶充之、御広間書院飾付御深淵ニ
同並御沙汰人共ニ従之布衣之長保出之食人召人ニ
白張之者猿楽ハ騎馬ニ之並之

一 巳后刻御黒書院 出御

御装束 白御直衣 御冠
御指貫紫

石川内膳正役之

同刻大広間 出御

御太刀 井伊掃部頭

御剱 石川内膳正

御脇指 内藤出雲守

大広間下段ニテ松平出羽守 御目見

是ハ先年同様之席ニ而列之候得共仰出也

御祝儀

但シ元服ニ付一度ニ一通之進上
右儀ハ之包し今ニ被仰達候方ハ無之

一 御上段 御着座 御褥
御刀掛 御太刀 御持小姓 御脇差

御上段之御畳三枚也尤脇ハ下テ中一枚上ニ中段之御畳ハ
三枚なかし上置之

御供之面々

石川内膳正
内藤出雲守
井伊縫殿頭
久世大和守
土岐但馬守

右人々ハ最初ゟ御跡相勤

一 御本丸炎焼之大老職並ニて
一 御評定所之通仮氏名之方相勤

彦根中将 井伊
会津中将 保科
姫路少将 酒井
高松侍従
出雲侍従
川越侍従
忍侍従
宍戸侍従
松平大炊頭

一 松之御廊下之類之者ゟ中之御座敷ゟ御次迄同所
ハ是ハ以来修之一列着衣冠太刀之帯
同之御座敷廊際ニ者以来之間ゟ二行列居着衣冠
太刀ヲ帯 但右之面々ハ三使ゟ振舞之節朝之使
ゟ帰之節ハ出頭ゟ着座退出之時ゟ之使ニ者相当之儀
但以来修之面々退出但従者以来家封馬守
此度京都迄ゟ御用絶相勤中ゟ被仰付ハ役人或ハ
御譜代之面々之外以人数ゟ為之右以来之様ニ而ゟ之

諸道列参衣冠太刀ヲ帯同下家満テ小忌之節ニ
前駈之面々同断
一 衣冠前駈之後ニ烏帽子着下人列居其外ハ大内舎人出入之
一 板輿車寄之方ニと相前之儀前ニ諸大夫着座
之面々之後諸大夫一列衣冠太刀帯居之
一 内書院書院ハ南寄之衆ト而小性組内書院番之
中奥出人之御会之間御側烏帽子素袍ヲ着之
居之但御殿者何者刺華度上段之内振舞ニ而相勤

右之烏帽子素袍着ニ而退出之内振舞有之大人大
敬上之方衣冠之輩者衣冠附烏帽子素袍之
出勤御仮
一 三度之内礼之相済候而宗対馬守同播磨守土屋相模守
松平出雲守井上筑後守安松小笠原宗安房守青山先
相先敬上之方ト引テ三度ヲ請取松之方へ何先
三度之先ニ書院内衆蔵之上ニ而相進之
松之間之御襖障子ノ際ニ而並三度ハ御襖障子ヨリ東ニ

老中ハ三人並居向ヘ居又上々官二人着座之故て
国書ノ披様ハ居又右老衆退去ニテ座敷ハ居又退去ニテ
川越侍従忠侍従起テ招有ハ出鉄又御前ニ
三使ヲ召シ有ル対馬守侍従ニ直シ対馬守侍従以知事
三使ニ告シ然又川越忠孝侍従ハ先ノ席ヘ帰ル
此時ニ井伊掃部頭中将会津中将若狭守中将ニ
高家ニテ八人席ニ候束ヘ井伊掃部頭若狭守ニ会津
中将若狭守ニ人ヲ被仰然又高家衆ヨリ退出之

対馬守侍従拝ス右ノ御前ヘ披露又侍従候又有良
加賀守出迎ヘ対馬守侍従下手ニ二度目ニ入座ニおゐて
有良加賀守誘引ノ御前ニ拝ス上座ニ上ル二度目ニ
ゆく事ニ加長親ニ後ニ参シ引ス又事シ退ク
有之テ三使出起中段ニ下ル二度目ニ上ル一同ニ敬礼ス
但対馬守侍従ニ居候ニテ加礼有ニ向ニ于テ退ク
三使致礼事ニ退キ揃ニ間有ル上ル席ニ出附之礼
意ニ入シ対馬守侍従ハ門ニテ手出シ

但右之通御目付ヨリ飛脚方ハ加穂ニハ川東之方ハ
加藤方ハ川西之役人ハ末ニ記し

一 幸於テ三使自分之趣様之加礼之次第

虎皮 五張 人参 十斤 白苧布 十疋

右之様ハ三使中ヨリ之物也

右之品持出し板縁ニ並べ然ル三使下段之中央ニ罷

一同揖礼今川始揖拶座席之際ニ出テ揖拝之儀使ト

板縁之封書儀三使ニ成帰出見之節見送ル退ク

三使揖礼平手板之前ハ退出ル此時右之趣東之方ニ川之

然ル處長根會席始中始茶構並使者始次ニ御免有之

以 御出会使人退出テ三使之向於縁際ニ迄ニ

荒川鉄忠始御役人之列之方様之際ニ列於テ

上意之趣封書出役ニ茶構始其倫之封書出役元ニ之

是三使ニ着し加議中ニテ次第如右之然ル使人至テ

御帰之者之加議之返ス上テ使人又今乳於中段之

東方ヘ個之三使一同ニ下段東之方ニ揃ハ退致

御盃頂戴之次第

御盃三土器　三方金箔 絵杉台　吉良少将

御銚子　同断　大沢侍従

御捨土器　同断　上杉宮内

三度目之御銚子ハ足打　金箔 絵杉なし　牧野周防守

三度之銚子　大久保出羽守

松平肥後守

御銚子　御酌　吉良少将

御加　大沢侍従

御前ニ出座之御加ニ而御盃御銚子ニ載セ中段下ヨリ二畳目

御酌候て御附封ニ侍従中段之際迄出

御盃頂戴之之長宴正使中段ニ而目附御酌御盃ヲ

取之候て謹て頂戴如斯之副使従事ニ御盃ヲ

席ニ正使ヘ同しく手自ニ御銚子入ル御三方御銚子

御捨土器ハ三度之御銚子ニ引替三度目ハ中段中央ニ

弁並一同ニ揖礼シテ相背ニ退出ス次知事二人（上ノ友之）一同ニ
出テ中段下ヨリ二過目ニ拝登揖礼シテ退去次軍友九人
拝伏ニ出拝登テ揖礼ス退去但シ知事二人右九人ノ前後ニ
先導出先ニ立チ知事御前ニ至テ突キ稍シテ前ニ平伏
先立ニ至友人ハ順々ニ再礼先導ニ出テ左ヘ退去
次参軍友八人拝伏ニ出テ揖礼シテ退ク元前東ニ立元知事ハ
此附ノ後ハ西ニ至
次冠友七人ハ同級ニ出テ拝伏ニ揖礼シテ退ク

次友八人一級十人一級落縁ニ出テ揖礼退ク
小学生十人一級九人一級落縁ニ出テ揖礼シテ退ク
次中友六級人縁東ノ門ヨリ入テ東庭ノ南庭ニ至ト同級ニ
出テ揖礼シテ去ル
右官人ハ道前軍友ト冠友ハ拝伏ニ次友ト小学生ハ
小書院東前ノ前落縁ヨリ東ニ出ル南ノ落縁ニ出テ退ク
附テ物前ニ中友之小十人ハ小学行用ノ儀ニ従テ同儀ニ従ヒ
先導テ東門ニ出ル但シ儀式相又伝部長参ニ先ハ従寺

御問之御書付ニ付右之

右御礼之節ニ判事衣ト上衣之様ハ直ニ御中書院書所ニ入
御附ハ書院書簾ヲ下ル是ハ御出御判事衣上衣之
御振舞前ニ付右之依之鶴御帳之ハ絶節ニ退ク
右惣御礼之節ニ表根會席而中而前橋前様敷而而
並御振舞ニ御所ヨリ下段ニ而 御出封高御段ニ
紀事三使ト告ル三使御礼之節下段中央ニ至
御礼中之節ニ相方ヘ退出ス三使退出之後入御

一 入御有テ上段ト中段之御簾ヲ下ル
一 下段西之方ノ戸ヲ立テ御簾ヲ下ル
右之御規式ヲ済テ後御次ノ間ヨリ紀伊大納言殿
水戸中納言殿尾張中納言殿出座三使ト出座して一坐ニ
揖譲有テ東西ニ着座
但紀伊殿水戸殿尾張殿ハ西之方三使ハ東之方ニ
着座
御饗應七五三例御間地扇之向詰ナリ

総代之面々衣冠下襲ヲ着之御次之座敷ニ而配膳
之間ハ不帯太刀役人従来

初献　加献

久世大和守
内藤出雲守
土屋但馬守　代ゝ勤ム

紀伊亜相ゟ初次正使次水戸黄門次副使次尾張
黄門次従者ニテ納ル祭畢ニテ退ル也

二献　加献

右三人代ゝ勤ム

尾張黄門ゟ初次正使次紀伊亜相次副使次水戸
黄門従者ニテ納ル
右三献ニテ相地入服紗門ニ茶菓子出之重候ニテ
亜相両黄門之使ト之向座一揖ニテ退去之使ハ
相ゝ前ト両加相ニ相伝出座伝役川脇伝役人
伝役冥加伝役相済ゝ列座ス
一　上之支配人ゟ振舞竟又七五三被成於御間ゝ向法
之節相ゝ前ナリ

給仕之面々作法同上役人添

一 軍官・副官三十人七五三之向詰出ル、御振舞有之、
席ハ書院東南之方、小廣間給仕御歩衆

一 次官小童三十七人是も七五三之向詰出ル、席柳間
但此間ハ上官之様ニ相違無之、給仕同断役人添

一 通長老柏長老ニも外出仕面々ニ御振舞出ル、退出ス
三使以対馬守御禮申上退出、次表振舞中納言御簾中納言
前橋中将若狭守中将御挨拶、忠御挨拶贈物御挨拶済

書院ニ而御除之相済ル、一揖ニて退出
宗対馬守同播磨守・安藤右京亮・松平出雲守・蒔橋下総守
小笠原安房守ハ書院之間迄送ル
同土屋相模守・井上筑後守・通長老・柏長老ハ中ノ間之間迄送ル
中刻三使出御挨拶ニ帰ル

一 下官之衆ニ者 折櫃被下候

一 三使退去以後伊豆守・豊後守ハ御書院ニ而被出御着座ニ
出仕之面々皆々退出

一 右慶之儀大君ニ於テ議定之而ニ致解表為申也
也 拠有依　上表中解之
従朝鮮国王之進物

一 人参　伍拾斤　一 大繻子　壱拾疋
一 大緞子　壱拾疋　一 白苧布　三拾疋
一 白綿紬　伍拾疋　一 黄照布　三拾疋
一 黒麻布　三十疋　一 虎皮　一十七張
一 豹皮　二十張　一 彩花席　弐拾張
一 青黍皮　三十張　一 魚皮　一百張
一 色紙　三十巻　一 各色筆　伍拾枝
一 油煤墨　伍拾笏　一 黄蜜　一百斤
一 清蜜　一十器　毎壺紅系
一 鷹子　弐拾連　一 駿馬　二疋　鞍具

以上

今日御役人衆ハ御門御警衛若年寄衆御備之

十月九日

一 朝鮮信使日光え参詣ニ付、役地え為銭一万疋、一万疋ツヽ
大久保加賀守、太田摂津守、井上河内守、松平出雲守、土井大炊頭
御預ケ置候 右之通 被仰付

一 此度朝鮮信使日光え参詣ニ付、相州加勢被仰付候、右之通
城織部

同十月十三日、御役人衆へ申渡 以上

十月十日

一 御前江道春長歌江召出之胡蝶之書間読之

十月十一日

一 御能間江牧野備後守召之進日記被下置候ニ付
仰含之

一 申上刻 二丸 御成

十月十二日

一 御座間ニ於テ佐渡守を以 在出之以後令以精勤
出勤之上被仰付候ニ付
御手自御賞之候旨御請申上候

十月十三日

一 午上刻二丸 御成

十月十四日

一 朝鮮人今朝日光ヘ発足

十月十五日

一 黒書院　出御　御用御礼被為請

白書院　出御　諸大名　御目見被仰付

一 西本願寺東派御門主名代　御目見　御暇献上物

御礼使僧一箱二種献之

差上　三方相出

上留院

御進物　太刀目録　矢角代　飛鳥縫之助

葉銀　平豊源七郎

新保主水

御詩前之御暇　花筵代　大庭民部少輔

御献物之御礼　銀子　渡辺丹後守

酒井右近大夫

御暇　今者初而御暇三御礼　青木甲斐守

同列　同列　保津郷守

駿府加番之一同　御用人

十月十六日

一　相知行　牧野備後守　御用人上方之例ニ而出会

一　公（弟）松平出羽殿　御目見被仰付

尾張殿へ養子ニ被成候ニ付　此度当表ゟ御暇被仰出

右依之右同断之御目見之ニ付上方ニ而御礼之儀相済

十月十七日

一　紅葉山　御宮　御名代寺社奉行

一　巳后刻　二丸へ　御成

十月十八日

一 殿中無別条

十月十九日

一 殿中無別条

三島へ 御用書出

夕刻ゟ風雨烈敷 夜中止

十月廿日

一 東叡山 御参詣 御名代 伊豆守

其節ゟ務候事 天気よく 昼前ゟ曇 上便今日到着 御用

十月廿一日

一 殿中無別条
井上河内守殿日光之御用済帰府

十月廿二日

一 朝鮮人信使今日従日光帰府
此段御老中へ申上ル

十月廿三日

一 黒書院 出御 宗対馬守 御目見 朝鮮信使
日光ニ而御取持ニ付 上意 宗播磨守
御目見是ニ宗右同断

日光御用之記

大坂御目代之殿　今日務て

相務候へとも[illegible]

大保主計殿
井上河内守
松平出雲守
加々爪民部少輔
坂井[illegible]少輔

一　十月廿六日

一　極上等　御帰被　御名代伊豆守

十月廿七日

一 朝鮮之信使ゟ献上物　上使酒井雅楽頭
何も罷出候ニ付為御礼参上　御老中御取次
於ゝ白書院差上之

朝鮮国王へ

一 鎧　廿領　　一 長刀　廿振

一 鞍子二飾　鞍子共蒔絵　張之風炉令　　一 太刀　廿腰

一 新屏風　廿双

三使へ

銀五百枚　三人ニ
錦三百把　三人ニ

上之官へ

銀三百枚ツゝ　三人ニ

上官へ　　五十枚　判官六人
十枚ツゝ　上官次官廿人
二十枚　学士
銀百枚　中官五十人
百枚　中官下官
次官へ
銀五百枚　宗對馬守
財層二千　同　播磨守
銀百枚ツゝ　右両人

一 以上使ハ書翰并ニ被遣之
上使ハ老中両人
　紀伊大納言殿
同前
　水戸中納言殿

同　久世大和守
一　松平備中守
一　大久保丹後守
尾張中納言殿
左馬頭殿
右馬頭殿

十月廿六日

一　黒書院　出御
右　御目見之御服丸之字之腰物拝領之　宗対馬守
是又御服拝領之　宗播磨守
銀百枚
綿百把
参勤之礼　松平隠岐守

大坂帰　　　切目丁子

一 毘沙門堂御門跡日光御山より　　太鼓数二ツ

仙石讃岐守

三宅大膳亮

上使内藤出雲守

樹一石[illegible]

[illegible]

十月廿七日

一 般舟別當遷化

毘沙門堂御門跡

十月廿八日

一 黒書院　出御御礼之間　白書院ニ而[illegible]

一 墨書院
　　来房之札進也

奥平大膳亮
松平周防守
伊達左近将監
本多豊後守
丹羽勘解由
三浦志摩守
青木甲斐守

一 右今般朝鮮人来聘ニ付於中御見也　作事
　　表勤向之面々　御目見
一 楽人之儀以前被成候今門刑部少輔　御達之候事
楽師、　銀三拾枚
　　　　俸ニ付
修理、　銀拾五枚
　　　　保ニ付
新兵、　銀拾枚
女之、　銀拾五枚
　　　　保ニ付
太兵衛　金五両
銀三十枚　右被下

十月廿九日

一 服中忌引条

十月晦日

一 服中忌引条

明暦元乙未年十二月

御日記

[illegible]

[illegible]

明暦元乙未年

十一月朔日

一 黒書院白書院ニ而御礼如例

御移徙之御礼

若王子

日野

法光遵

一 松平肥前守ニ 上使内藤出雲守ニ而被下之鶴

初鶴也

一 朝鮮人今日江戸発足

日光門跡天台座主宣下ニ付
禁中ニ而御拝賀之節今日御門跡中上京ニ付被為遣之
御祝儀人参遣之

十一月二日

一 巳中刻二丸 御成

十一月三日

一 殿中無別条

十一月四日

一 勝仲西刻参
御案内也

十一月五日

一 勝仲西刻参
伊豆守ゟ[illegible]御縁組之儀
下野守様之[illegible]
申候[illegible]
然者[illegible]自身
[illegible]自身
[illegible]

十一月六日

一 午刻二丸 御成

一 式日 伊豆守出仕
松平伊豆守へ上使太田備中[illegible]被下[illegible]

十二月七日

一 黒書院 出御

御腰物 御馬代　松平但馬守

本郷丹後同氏出羽守二男上原本長子之父
家督御礼

在府 年寄　右ゟ参府

御腰物 御馬代　代七〻二十　戸田采女正

御腰物代　代七〻三十　松平山城守

御腰物代　同六拾枚　初　本多中務大輔

同十　戸田主殿

同六拾枚　三宅大膳亮

定　分部源六郎

御腰物　代七〻之拾枚　本堂源七郎

御腰物　同千拾枚　松平紀伊守

同

同加判　多賀左近支

天龍院様出来候
老若小姓

鵜殿信濃守倅　鵜殿伊織

自分出礼

同人

御目見　蝋燭二挺

松平能登守家来　小栗源八

細川越中守家来　津村守右衛門

同

為之三

御目見

芝口御番衆　筧新太郎

右同人件之

丘野下之御礼申上

自分勤

京都年寄　堀池萩右衛門

十二月八日

一 巳刻二丸

御成

上使大久保信濃守　井伊掃部頭

御鷹之鶴被下之

同加保科弾正忠　保科肥後守

十二月九日

一 御庭掃除之者 御目見

一 紀伊殿水戸殿尾張殿江 上使 奏者番江 御厩

松平上総介江 鶴御拳之雲雀 拝領之

十二月十日

一 見寿院 出御 紀伊殿水戸殿尾張殿
御対顔 相済以後 上使 奏者番江 御厩之札 但申之
雁提鴨提 御鷹之鶴二双ツ 被下之

一 千姫様 西丸様より被進候

堆朱香合 一
唐円鏡 一
琉球布 七
珊瑚珠 十
白鶴 一
蒔絵之箱 一
羽箒之箱 一

西丸様へ

御返シ 本丸様 へ

十一月十一日

一 巳刻二九 御成

紀伊殿より御茶壷持ニ而

松平伊勢守より 松平出羽守二疋 上野藤右衛門

十一月十二日

一 評定所へ 酒井雅楽頭出座

紀伊殿より 紀伊殿書物ニ而

十二月十三日

一 紀伊殿水戸殿江為上使御鷹之鶴被下之

一 右御使雅楽頭被遣候ニ付御鷹之鶴御拝領
被仰付之

十二月十四日

一 尾張殿為御使御鷹之雁被下之
[illegible]

十二月十七日

一 御礼申上如例
御茶[illegible]

相国寺
春長老

天龍寺
倫長老
玉西堂
至例
般若院
松本上総介
時之代
右但馬守妻子ニ付御礼
但馬守子
采女
松平出羽守御礼申上ル
保科長門守
右隠居ハ嫡子ニ家督被下御礼申上ル

一 今般朝鮮人来朝ニ付御役人ニ至迄
御目見
右之儀者御触有之ニ付一切不及申候
之通ニ而宝暦度之通候国之通申付候事
十二月十六日
一 殿中無別条

右ハ十一月朔之　禁中ゟ御達有之候事

十二月十七日

一 紀州殿　御養子

　御養氏伊豆守

十二月十八日

一 紀伊殿家老尾張殿抱備之地ニ付（伝）松平大炊頭

（共）中根日向守（並）小笠原郷中守取扱之旨申渡

（右同断）三条実美ゟ右之通候ニ付交代候也出張ニ付見合候ニ付元通ニ付

十一月十九日

一 敵中引籠候へ共
諸大名陣ニ在之　于今中山様陣ニて相残候由

十一月廿日

一 東叡山　御名代若狭守

一 去九月十三日 紀州和歌山火事出来 未ノ中刻ニ本丸二ノ丸焼失 紀伊殿御屋形焼、
為 土佐安房守御見舞 御使被下、内藤出雲守
被遣之

十一月廿一日

一 敬仲到来候之

十一月廿二日

一 評定所ニ伊豆守老中方出座

十一月廿三日

一 於小座敷安藤対馬守大坂江被仰付○御暇拝領之（○御手ゟ十徳為拝領之）

一 来年表 御用絵所 松平右京亮 御使ニ

御礼之

十二月廿四日

一 増上寺 御名代伊豆守

一 巳刻二丸 御成

江戸中火之元見廻深川西葛西迄被仰付候、被申付候、其上七夜相勤候

加々山輔之丞ニ申付置候処 御免

十二月廿五日

一 殿中別条無之

吉良若狭守 松平丹後守 大須賀 御役 御免

十二月廿六日

一 黒書院 出御

御側衆 御加増千 奥 御側御用取次見習 松平隠岐守

奥 松平河内

同断 六百石 松平阿波守

同断 同断 大久保山城守

同断 同断 黒田内膳正

同断 二百石 本多隆軌

同断 七百石 一色周防守

右面々之義者先手頭ヲ以御褒美被下置候 松平備後守

之月十八日家督被仰付隠居仰付候旨

御加増十 池田右京亮

右者此度父出雲守御役 御側衆御免 高知 寄合 御役

家督御礼 今日 三千石拝

右之者家督御礼 高知 延引

家督 二千石 新知 五百石 柳生内膳

牧野内膳

一 御書院番頭之願 御免 御目見

御使番 御礼申上之 御目見之外

初而御目見

清雲院殿家来 長谷川伝十郎

新太郎事 筧新助

右御礼 相済 松平清九郎

肥後守殿御目見被仰付 一所ニ御礼ニ 下曽根三十郎

小坂助六郎

筑後守殿御目見被仰付 同断 徳山五兵衛

鈴木友之助

右友之助惣領ニ而出ル 追而何ニ

松平伊賀守安藤之助

一 二条

一 〃 鈴木平八

小田切土佐守当番

十一月廿七日

一 右御茶 伊豆守殿御渡書付写 一通 御渡被成候

一 十二月廿八日
黒書院白書院而御礼前例
御祈 永平寺
惣代 龍穏寺
右三宗門之惣人結揃ニ付 御付紙在之
相勤 小笠原佐渡守

川鋪より出帆 之段同月十日申来候
一 於御前左馬助殿右京助殿 御目見人へ致候
朝鮮より到来之進物 松平甲斐守
人参 五斤 清蜜 二壺 黒布白綿 十端
豹皮 五枚 緞 十本 虎皮 三枚
貂皮 二枚 唐筵 三枚
右之品々之上 次第老中 御目見
一 松平右京大夫来年 御用番 御使ニ 仰付候

御礼出

一 十二月廿九日
服中ニ付不参

一 十二月晦日
讃岐守病気ニ付[illegible]名代 [illegible] 上使 内藤紀伊守
[illegible]

明暦元乙未年十二月

御日記

七月廿八日写

庄十郎

国立公文書館
National Archives of Japan

明暦元乙未年

十二月朔日

一 黒書院 出御南面 御対顔 次紀伊殿

水戸殿尾張殿侍従殿讃岐殿御着座之丶

通 御目見之上紀伊殿出被令致和哥山

火事ニ付 上使被遣之御礼申之水戸殿出座

御前侍ニ右京亮 御使ニ 御目見之礼

一 白書院 御礼之儀

一 此造営之御礼　　　　　　役者 社人惣代

一 惠書院

奉勤　　　　　　松平丹後守

隅伝功　　　　　酒井日向守

夫尉　　　　　　玄琳

一 御白洲間 今川刑部大輔 奉勤 装束着候人ニ候間御勤可有

御目見

御前ニ而白書院ニ而御目見有之也

一 吉良若狭守 来年 御前ニ而 御使下向

奉之

十二月二日

一 巳下刻二丸 御成

酒井讃岐守殿和　土屋大久保加賀守

十二月三日

一 殿中無別条

十二月四日

一 御評定所寄合　伊豆守宅

一 尾張殿敷屋敷江 表方ハ似　土屋但馬守

一 御礼所割也職

一 反貴寧江 作候

十書物　幸島八郎九郎

倹丑　同 小八郎

張良　同 二郎九郎

政次与市

一 附殿両人ニ而

附殿之間 不残以下 会ニ相成

但、野ニ而相勤候 権八・次郎兵衛ニ相渡

相見へかゝり

一 節ニ者膳之上ニ而相済

同 久八郎

香宗次郎右衛門

同 右馬助

同 久八郎

同 権八郎

同 次郎兵衛

同 久治郎

十二月五日

一 掃部殿肥後守方ゟ御使者被遣候

今朝者御使ニ而 被遣之、右之御返事被下候由 御使ニ候

十二月六日

一 敬中元例条

十二月七日

一 隠岐守就元服官位 職
花房録之助 安藤下総守被仰渡候

十二月八日

一 巳后刻二丸 御成

一 風邪気ニ付以周防守殿江御尋合之

十二月九日

一 殿中別条無之

十二月十日

一 殿中別条無之

十二月十一日

一 黒書院 出御 御目見

一 御太刀 金馬代 献 御使者 本多弾正大弼

一 御太刀 銀馬代 山城守 小笠原民部

右御礼申上候ニ付山城守縁ニ而披露

御目見之御礼申上ル

奏者 隠居 酒井大膳亮

御服十 祝言相済御礼 阿部備中守

同 三 〃 松平河内守

右河内守ハ御服ニ表書有之献上也

一 金拾枚 家督御礼 久留嶋信濃守

一 銀馬代 蝋燭 初知ニ御礼 久留嶋彦八郎 亡父跡

銀三代 同断 同 権三郎

御刀 御手前ニ而被下 丹羽勘助

御祐筆　組頭　　戸田勝次郎
是ハ去ル卯年以来御用向大切ニ相勤候ニ付
右同　御用　　被下物　　鈴木権之助
同断　一　　大判金壱枚　　鵜飼健之助
同断　　　　西條金太郎
英金附候者　同断　　関忠三郎
鈴木政　　　　渡辺荒蔵
御目見之儀ハ追而
右両人今般今年小屋普請仕候ニ付
英金附候者
鈴木政附候者御褒美被下　　佐藤郷太郎
　　　　　　　　　　　　　柘植右近
　　　　　　　　　　　　　江原与太郎
右之人数先達而懐山屋普請ニ付
御用相勤候ニ付　　　　　　　花房郡太郎
大坂御用之所　　　　　　　　安倍一郎右衛門

十二月十二日

一 評定所江出仕有之候ニ付

松平隠岐守・松平阿波守ト二番ニ而鶴之間御詰被仰付候
紀伊宰相殿 上段御襖際着座有之 上段之間御次之方
御呼出之事

十二月十三日

一 如例年之煤掃被仰付候ニ付、松平之者、御出無之

十二月十四日

一 根本出雲守殿被仰付候
紀州様御付之者、今日御目見被仰付候
右之者、御次之間ニ而、上段之間御敷居際ニ而

十二月十七日

一 黒書院　出御御礼如例

一 尾張殿使者鷹之鶴献上ニ付、一人ニ而拝領之

一 白書院　出御御礼如例

（御礼）
米料

右衛
小田

奉行　石動院

寺社　二諦坊

一 黒書院

時服二十（銀一枚）　銀五十御礼　松平安藝守

同十（銀）　同　松平攝津守

襲封御礼　（御太刀 小袖十 銀一枚）　松平武蔵守

同　時服太刀馬代　小笠原山城守

家督　小刀十枚　黒田甲斐守

保科美作守ニ付公方様ニ而御年寄ニ出席ニ付 御用ニ付[illegible]

一 [illegible]

拝領物有之、安藝守殿より御渡ニ付、御同人御用番ニ付、一統ニ
頂戴候之御礼廻りいたし候　以上

十二月十六日

一　日光御門跡御下向ニ付　　上使　松平伊豆守殿
　　者出仕
松平安藝守殿御役儀ニ付、叡慮を以被仰出候
土方靭負殿御上京之節

十二月十七日

一　紅葉山江　御名代　保科肥後守殿被相勤候
　　御同人
来ル廿日出立之段申達

一　十二月十八日
殿中無別条

一　十二月十九日
白書院　出御　日光御門跡参府御礼　老中
備後守[illegible]

奏者
御屏風右ノ間際ニ而[illegible]　勤之候書院
次毘沙門堂門跡御礼
次安教院　六角権氏　学寮院　常照院御礼　次
叡山惣代　千手院御礼　次日門末寺御礼

一　黒書院　出御
参勤之御礼　御暇之[illegible]
[illegible]
御門跡御用ニ付[illegible]
一小笠原出羽守
一戸田但馬守
久貝忠左衛門
与力

一 巳上刻浅草寳仙寺より出火伊勢安房小泉
屋遠藤定之丞組九左衛門 日根野権十郎 忌鍋丹後守へ
与力秋田安房守下屋敷 此外与力同心屋敷
類焼

諸式 附
高一万石 保科山城
三千石 小出
榊原式部 丹羽万五
小出(?)主殿

十二月廿日

一 上野 御参詣 御仏殿

一 囲碁象戯 御城 御黒書院 出御 上覧

囲碁 門入 算知 二局揃

象戯 宗看 道仙 角落 持

宗桂 正甫 角落 揃

十二月廿一日

一 御家人之子惣領之[illegible]、諸[illegible]十七人江 御[illegible]之

一 碁象戯之者共、御城附被[illegible][illegible]

一 御大番大橋[illegible]、大久保若狭守申上て御用[illegible][illegible] 御[illegible]

一 今日諸職人 御[illegible]

松平大隅組 [illegible]之子 布施[illegible]三郎 長泰

同人組 [illegible]之子 同 [illegible]次郎 朝泰

大久保出雲守組 八木[illegible]之子 利信 [illegible] [illegible]太郎 利廣

同人組 同人子 同 大八郎 利重

中根[illegible]組 [illegible]之子 [illegible]

小笠原[illegible]組 [illegible]之子 忠次 戸塚[illegible]九郎 忠勝

一 [illegible] 同人子 同 [illegible]十郎 忠久

一 [illegible] [illegible]之子 吉次 〇三井市十郎 吉近

小笠原組 [illegible]之子 〇三浦平八郎 [illegible]近

中根大隅組、[illegible]之子 [illegible] 植村十右衛門 [illegible]

同人組 八木[illegible]之子 勝宗 [illegible]新八郎 正[illegible]

松平[illegible]組 [illegible]之子 酒井[illegible]

同人組 伊[illegible]之子 小長谷新八郎

同人組、 [illegible]之子 高林亀之助

[illegible]組 [illegible]之子 [illegible] 内藤新五郎 [illegible]

天野[illegible]組 八木[illegible]之子 小笠原伊兵衛

同伊豆守組　六月十六日　新見新九郎

稲垣大膳亮組　小普請 伊奈半十郎支配　伊東源之丞 忠丘

大久保右京亮組　尾張殿 以上 忠恭　新井甚之丞 忠秋

同人組　二十六日 三之丸 御納戸 同人子　同　宗兵衛 忠正

松浦周防守組　書院 清水番子　松平三之丞

中根大隅守組　大番 保番子　山本文蔵

曲淵越前守組　大番 秋番子　秋山文左衛門

酒井紀伊守組　御蔵 平番子　米倉権兵衛

伊沢隼人組　大番 新番方子　石尾権十郎

以右京　次番子　一色長二郎

伊沢隼人組　小普請 十番方子　小林彦七郎

以代官　新番方子　松村十助

同所　番方子　小川三郎兵衛

以勤番　番方子　長谷川岩次郎

以小納戸　又番子　宮原文右衛門

植村帯刀組　新番方子　~~阿部十右衛門~~　十五日　山本権右衛門

新番方子　連勝

以書院道説　阿部所左衛門 重正

五千石 外 八十石 六十石 御納　同人一同　三右衛門 重宣

以書院所　三番方子　大岡権八郎

同所　三番方子　能勢次郎左衛門

以寄合　次番方子　天野九右衛門

以流同 組説　八番子　広瀬権三郎

以流同　保番子　木村仁右衛門

以先手説　番子　鈴木文十郎

以先手　六番子　佐藤源十郎

能勢 組　新番子　大久保三左衛門

松平 組　小普請　青木次郎兵衛

中根大隅守組　大番 番子　下山十太郎

内藤 組　新番子　栗田小左衛門

松平 組　大番 保番子　篠山小傳治

以勘定奉行　二番方子　柳沢源右衛門

阿部殿ゟ以手紙申来候ハ、明廿二日四ツ時登城可有之旨申来ル

十二月廿二日

一 評定所ゟ出役伊豆守

一 従 女院様、崩御ニ付、兵服并御紗綾二巻御札壱枚

右之段御側衆ゟ御札拝見

上意之書付被相渡、趣大意者大久保若狭守相渡

十二月廿二日

一 於御前雅楽頭讃岐守ニ御小袖被下之、伊豆守
豊後守ニ御小袖二ツ宛被下之
雅楽頭ハ鷹之鶴被下之

十二月廿四日

一 増上寺ニ御参詣、雅楽頭
一 及暮帰御、御供之
堀川夜詰
八嶋
奉行 八郎九郎
同 桂八郎
奉行小八郎
同 久八郎
同 次郎左衛門

梅泉院殿御年忌ニ付、東叡山御霊屋ニ御参詣之

松中務少輔　小般　伊藤宗看
今中務少輔　大橋宗桂

十二月廿六日

一 日光御門跡出山ニ付　上使久世大和守
被遣之、御菓子一箱被下之

一 寺院御目見十九人出　御礼

一 御切米手形改　席

御切米石奉行被仰付

御勘定
御勘定組頭　設楽孫七郎
御勘定組頭　成瀬　郎
御勘定　川合　郎

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

横山　之
御勘定　　　御目付
御材木　竹村
奏者番　長谷川　主
　　　　石本　十郎
　　　　小林二郎
　　　　伊兵衛

一 寺社　御免　役

寺社奉行
奏者番
若年寄　松平　守
　　　　一色　八
　　　　大塚小源次
　　　　小幡　人
　　　　小嶋　之丞
池田　　　　　木下　衛
　　　　荒川　守
　　　　横地　衛
　　　　中嶋　　
　　　　石原　郎
　　　　小嶋　　

御花畑

小遠州

本多安房守殿

小笠原右近殿

加藤兩右近殿

御局見

公儀大目付衆紀

狭鶴殿

御よりや

二千石高 松浦平兵衛

泰長寺 道悦

三千石 青山次郎右衛門

五千石高 沢仁多衛

様右衛門 竹本喜右衛門

三千石高 内山喜右衛門

利右衛門 永井市郎

三千石高 松尾傳之丞

長久寺 跡部源五右衛門

一 十二月廿六日

一 奥書院 出御

能書 湯浅納

金拾枚 絶目

金三代 一枚 足袋[illegible] 紙[illegible]目 [illegible]

[illegible]府 綿二十

[illegible]御伽 銀子代 [illegible]

松平大隅守

西條之助

西條民部

[illegible]民部少輔

片桐石見守

組番之事

吉田兼出雲守
橋本信濃守
芦野式通
稲葉内記
吉田兼作六
辻内仕
新庄子摂守

前同
米林
組番
満仮附

沢
素浅弥

一
御側之間之宿直番等之者
上原附膳式

黄金弐両ツヽ

呉服弐ツヽ

黄金弐両ツヽ

同金弐両ツヽ

同弓元
同小姓元
小納戸元
久保兵之助
石河平之助
瑞河源
細河源

江戸便ニ而申来候事

一 小栗又一郎事中奥御小姓ゟ御目付被仰付候、

小菅内記助

大久保三十郎

右

御役御免

寄合

来ル廿七日之

西丸御留守居下

掛川都而御用ニ付老中御城 [illegible]

御祐筆組頭 [illegible]

金子九郎

同 久保 [illegible]

同 久保 [illegible]

同 清水平 [illegible]

来ル新規ニ [illegible]

上使 [illegible] 御居間 [illegible]

御用御座敷 [illegible]

十二月廿七日

一 御家 大村出雲守 但 [illegible]

十二月廿八日

一 黒書院白書院ニ而御礼相済

御礼
日
右也

　　究教院
　　山王神主
　　昌径
　　昌庵

為勤御礼
　　玄碩
　　呉服所
　　古田掃部寺

為御
　　細井佐次兵衛

一　御奏者番八人御礼有之　右之御奏者披露以上

一　上意御服之上ニ而
御書院以　御前ニ而御序ニ而
木小袖之
　　道春
同断
　　玄的
同断
　　玄純
御小袖被下之
　　久保吉右衛門
同断
　　大橋長左衛門
右為人かゝる者調…
　　狩野探幽
　　能…

附札之紙　　鈴木権之丞

一 御目見之節御加増有之、御部屋住御宗御加増有之

一 家督之節前々相続御預り御書有之

銀川相続之

組所

松平大隅守

同　内記

同　隼人

勝田隠岐守

御小納戸
御目見七郎

一 御役高千石之人、右者七千石之者、役高千石之者

高(?)之御加増

一 右支配之通高(?)御加増右者田分之高(?)残候也

高(?)之御加増

亀岡伊勢守殿　石川六兵衛

浅井[illegible]殿　高尾伊賀守

竹腰(?)尾張守殿　石川平兵衛

十二月廿九日

内記子
出雲守　加藤(?)源五郎

柳原(?)子
信濃守　稲垣藤之丞

元之右
織田内記

山城(?)子
佐渡守　中川修理

表向諸大名衆
御礼

河内守
松平千松

摂津守
元ト名
酒井大学

遠江守
元ト名
伊達小次郎

丹後守
元ト名
京極信濃

采女正
土佐守
戸田左京

諏訪九門　七

黒田内記亀　六

表方人数衆
御礼

長岡源右衛門　二

曽我又右衛門　四

石川六右衛門　三

相倉仁左衛門　一

日向守子
水野備前

九門子
戸田左馬

作右衛門
安藤長太郎

太田原若狭子
高板孫内

一 加判之方ゟ申上ル　斎之内申上ル也
諸事ノ於

十二月四日

一 御年寄衆被仰渡三家方并一門諸大名江

職

大手前之御門番衆被仰付

御老中御用番 御勘定

佐竹右馬

酒井主計

本多隠岐

保科駿河守

小笠原主膳

竹村加兵衛

一 大番

川勘定

今出川拝領

元高四百石　高七千石之加増

元高四百石　高之加増

元高七千石　高七千石之加増

元三百石　高之加増

元高七千石　高七千石之加増

精家

源右衛門殿高八万石

御家来二千石

三右衛門

与兵衛

源三郎

六右衛門

大久保三

同源兵衛

松平三右衛門

稲垣

本郷源右衛門

稲田九左衛門

精家御頭

平太

大久保

加増

十五

吉兵衛

斎藤

青木小膳

直

紀之

重

源

服部

左

源

国立公文書館
National Archives of Japan